

第5章 結 論

第1節 結論

筆者は2009年から還暦野球に参加し、2012年11月をもって4度目のシーズンを終えた。還暦野球の選手たちは、筆者の当初の予想を覆し、技術的・身体的にハイレベルにあり、彼らのプレー姿は常に若々しい。

「仲間づくり」と「健康」に価値を置き、何よりも野球を楽しむ姿勢に感動し、リーグ戦や交流戦で全員に出場機会を提供する連盟の理念にも共感できた。そして還暦野球の研究・分析は、子どもたちのスポーツ活動に重要な示唆を与えることになるだろうとの確信を持つに至った。

研究が子どもたちの明るい未来と、生涯スポーツの発展につながることを願っている。

第1章では、研究に至る背景と、その目的について述べた。「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利である」(スポーツ憲章全文)といわれるが、実際には課題も多い。内閣府が3年ごとに調査している「体力・スポーツに関する世論調査」では、週1回以上運動・スポーツを行うスポーツ実施率は2009年に45.3%と微増しているが、目標の50%には到達していない。働き盛りである30～39歳のそれが35.6%であることを見ても課題は多い。

さらに、スポーツ界ではジュニアの育成が盛んであるが、「スポーツ教育学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの研究成果は、若年からのスポーツの専門化や過度の練習、勝利への強いプレッシャーは、子どもの身体的発達以上に人格的発達にとって好ましくない」との指摘がある(47)。

日本のスポーツは永らく学校の部活動に依存してきたが、進学するたびにスポーツ人口が減少する現実を見ると、地域スポーツクラブによる愛好者の育成が生涯スポーツの発展と地域の活性化にとって緊要の課題であることが理解できた。

それらを踏まえ、中高年が参加する還暦野球の研究を通して、子どもたちのスポーツを含め、生涯スポーツのあるべき姿の一端を明らかにしたいと思った。

第2章では、今研究の目的を達成するために、文献（インターネット情報を含む）と、兵庫県還暦軟式野球連盟に所属する選手への質問紙調査による分析の二つの方法を採用することを明示した。一つは、生涯スポーツおよびジュニアスポーツに関する先行研究から学ぶことである。二つには、還暦野球選手に対する質問紙調査を行うこととした。彼らの野球参加の目的・動機は何か、どこに価値を置いているのかを分析した。そのことによって、子どもたちのスポーツ活動の在るべき姿を明らかにし、日本における生涯スポーツの発展に寄与することを目的とした。

第3章では、まず質問紙調査の結果を単純集計した。回答者の属性、子ども時代のスポーツ経験や頻度、同じく中・高校時代のスポーツ経験と頻度、成績や継続年齢、健康に関する意識などをまとめた。さらにここでは、Kenyon の身体活動への態度尺度を参考に、スポーツ参加の動機・目的を六項目にわたって分析した。

次に、調査結果についてクロス集計を行った。野球経験者と経験なしグループ、学校時代のスポーツ頻度、成績優秀者とそうでない者が動機・目的において双方のグループにどのような差異がみられるかについて、 χ^2 検定を用いて比較検討した。ここでは、野球経験者や成績優秀者、およびスポーツ活動頻度の多いグループの方が、野球技術の追及やスリ

ルの求め方、あるいは自分への試練・鍛錬により強い関心を示すことが証明された。

第4章では、第2章、第3章の研究結果をもとに考察を行った。小学校時代の多様なスポーツ経験は生涯にわたってその人に影響を及ぼすことが分かった。複数種目を経験させること。それが「遊び」を伴い、子どもたちの創意・工夫の中で実施されれば、生涯スポーツの継続に有意であることも認識された。

中学校時代には、スポーツを行う目的に多様性を持たせること。勝利だけがスポーツの目的ではないことを学びながら、複数のスポーツに親しませることが大切である。

高校時代のスポーツ活動は、その後のスポーツに関する個人の価値観に直結している。この時期には勝敗にこだわらず、オーバーユースに配慮しつつ専門種目を伸ばすことが望まれる。それだけに日本の高校野球が陥りやすい過度な練習や、勝利だけを求める傾向には注意する必要性がある。

これらを通じて、「仲間との交流」「健康の維持・増進」に重きを置き、地域のクラブとして社会参加の喜びを感じることができる還暦野球の果たす役割も明確となった。また、学校時代には練習を強制され、先輩・後輩の上下関係の中で育った還暦世代が、横一線の間人間関係を新鮮に感じている姿も浮き彫りとなった。彼らは野球に対し、まったく主体的に参加している。それに喜びを感じている姿が明らかになったことを考察した。

以上、還暦野球は、日本における生涯スポーツの発展につながる理念を持っており、それはまた、子どもたちのスポーツ活動や高校野球の発展に有用な作用をもたらす可能性がある。日本における生涯スポーツの

発展を願いながら、その一翼を担っている還暦野球の成長と、関係者の一層の努力を期待して結論とする。

第2節 今後の課題

日本における生涯スポーツ発展のためには、学校部活動から地域のスポーツクラブへの移行が避けては通れない課題となる。今後は部活動との共存を考慮に入れながら、地域における自主的な総合的スポーツクラブの創設や育成を急がなければならない。

また、早期専門化が主流となっている青少年のスポーツに、「遊び」や「複数種目」経験を取り入れながら、国民の注目度が高い高校野球におけるオーバートレーニングの改善を通して、ジュニアスポーツのさらなる正常化を目指すことが重要な課題となる。

還暦野球については、高齢化社会到来の中で社会的にも注目される存在となりうる。したがって、今後は積極的に地域社会と関わり、福祉関係のボランティア活動や女子野球、障害者野球等とも積極的に交流を深め、地域のスポーツ文化向上に寄与することが大切である。

そこから、かつては学校体育・学校スポーツに依存してきた地域に、スポーツクラブが新しい風を送り込み、住民の QOL 向上に結びつく生涯スポーツの良さを伝えることが可能となる。

なお、学校現場における「体罰」や「いじめ」問題は、生涯スポーツとどのような関りを持つのか。これらの差し迫った問題に、体育・スポーツ関係者や部活動がどのように関わっていくべきかを探る課題も見逃せない時代となっている。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、指導教官として永木耕介教授には本当にお世話になりました。書き手の年齢、能力、置かれた立場等への細かいご配慮のもと、終始変わらず主体性を尊重していただきました。

還暦野球に絞った研究をご提案いただき、予備調査をふくめた質問紙調査では、考察までの流れを見通されたご指導の中から十分な調査結果を得ることができました。深くお礼を申し上げます。

また、行動開発系コースの授業でお世話になったすべての先生方に謹んでお礼を申し上げます。先生方の温かいお人柄、研究者としての厳しい姿勢には大いに触発され、大学という知の世界に身を置く愉しさを感じることができました。永木教授をはじめ、諸先生方のますますのご健勝を心から祈念いたします。

兵庫県還暦軟式野球連盟事務局のスタッフ、各チームの代表者と選手の方々、そして三田プリンスの長尾監督以下チームメイトのみなさん、質問紙調査への記入、煩雑を極めた真夏の回収作業など、公式戦最中の依頼にも関わらずご協力をいただき、おかげをもちまして、今日の研究発表を迎えることができました。深く感謝申し上げます。

教職をリタイアした後に大学院生となった立場からは、行動開発系コースの先輩や同級生の存在が心の支えとなりました。良い仲間恵まれ、彼らとともに参加した院生ソフトボール大会や食事会、あるいは学内の散策は生涯に残る思い出となります。

さいごに、同じ研究室で机を並べて勉強した、河野邦子、持田和明両君、そしてコーヒー淹れの達人・太田直希君、本当にありがとうございました。

2012（平成24）年12月20日

参考文献

- (1)スポーツ憲章：2011年、公益法人日本体育協会ウェブサイト
<http://www.japan-sports.or.jp>
- (2)スポーツ振興基本計画：2006年、文部科学省ウェブサイト
http://www.next.go.jp/a_menu/sports/pla
- (3)スポーツ実施率：内閣府「体力・スポーツに関する世論調査に基づく文部科学省推計」
- (4)運動・スポーツ参加率の国際比較：SSF 笹川スポーツ財団調べ
「国民のスポーツ実施の現状」 <http://www.ssf.or.jp>
- (5)文部科学省「スポーツ実施率」前文
http://www.next.go.jp/a_menu/sports/pla
- (6)杉山茂「スポーツは誰のためのものか」(25ページ)
2011年4月慶應義塾大学出版会
- (7)長積仁「学校部活動と地域スポーツクラブのすみ分け」
「体育の科学」2011Vol.61 669ページ
- (8)杉山茂「スポーツは誰のためのものか」(24ページ)
2011年4月慶應義塾大学出版会
- (9)玉木正之・ウェブサイト 2012年10月12日掲載
<http://www.tamakimasayuki.com>
- (10)武藤芳照、深代千之、深代千代「子どもの成長とスポーツの仕方」
(4,15ページ) 1985年5月 築地書店
- (11)玉木正之「スポーツ解体新書」(67～69ページ)
2003年1月 NHK 出版
- (12)岡野 進「ジュニアスポーツの諸問題」(111ページ)
2011年5月「現代スポーツ評論」所収

- (13)岡野 進「ジュニアスポーツの諸問題」(110 ページ)
2011年5月「現代スポーツ評論」所収
- (14)全国還暦野球ブログ・ウェブサイト
<http://kanrekibb.blog18.fc2.com/>
- (15)兵庫県還暦軟式野球連盟編「兵庫県還暦野球史」前文
(2004年3月)
- (16)脇村春夫あいさつ 前述「兵庫県還暦野球史」4 ページ
- (17) 全国還暦野球ブログ・ウェブサイト
<http://kanrekibb.blog18.fc2.com/>
- (18)Kenyon 1968年 Reserch quarterly,39,96-105 ページ
- (19)Kenyon 1986年 A conceptual model for characterizing
activity
- (20)山口泰雄「日本人のスポーツ観」(60~61 ページ) 1988年3月
森川貞夫、佐伯聰夫編著 大修館書店 所収
- (21)工藤公康「SCIX スポーツ・インテリジェンス講座」講演
2012年6月23日 神戸市国際会館
- (22) 武藤芳照、深代千之、深代千代「子どもの成長とスポーツの仕方」
(4 ページ) 1985年5月 築地書店
- (23) 武藤芳照、深代千之、深代千代「子どもの成長とスポーツの仕方」
(15 ページ) 1985年5月 築地書店
- (24)岡本博志「甦れ、日本のスポーツ」(41,45 ページ)、
1986年11月大修館書店
- (25)日下裕弘、丸山富雄、加納弘二「生涯スポーツの理論と実際」
(16 ページ) 2001年4月 大修館書店

- (26)長ヶ原 誠「中高年競技者のスポーツ・キャリア」(679 ページ)
「体育の科学」2011年 Vol.61 No.9 所収
- (27)長谷川滋利「素晴らしき！メジャーリーガー」(24 ページ)
2006年10月 日経 BP 社
- (28) 長谷川滋利ブログ・ウェブサイト (USA スポーツ解説コム)
<http://sportskaisetsu.com/>
- (29)高多薪吾「プロ野球を統計学と客観分析で考えるセイバーメトリクス」2012年水曜社。2012年7月7日ライブドア・ウェブサイトに掲載。<http://news.livedoor.com>
- (30) 長谷川滋利ブログ・ウェブサイト (USA スポーツ解説コム)
2012年7月付 <http://sportskaisetsu.com/>
- (31)Sportiva ウェブサイト 2012年8月7日 14:28 配信
<http://sportiva.syueisya.co.jp>
- (32)日本臨床医学会学術委員会「日本臨床医学会誌」241～242 ページ
2005 Vol.13 suppl.
- (33) 日下裕弘、丸山富雄、加納弘二「生涯スポーツの理論と実際」
(164 ページ) 2001年4月 大修館書店
- (34)中村敏雄「著作集第六巻」菊 幸一編 (243～244 ページ)
2008年7月
- (35)永木耕介『ヨーロッパにおける柔道普及と「世界柔道連盟」構想』
(188 ページ) 2011年5月「気概と行動の教育者—嘉納治五郎—」
所収
- (36)大倉明「舟木一夫の青春」(216 ページ)2012年3月産経新聞出版
- (37)日本 WHO 協会ウェブサイト <http://www.japan-who.or.jp/>

- (38) 長ヶ原 誠「中高年競技者のスポーツ・キャリア」(678 ページ)
「体育の科学」2011年 Vol.61 No.9 所収
- (39) 清水 諭「甲子園野球のアルケオロジー」(114～115 ページ)
1998年6月 新評論
- (40) ロバート・ホワイティング「菊とバット」(78～79 ページ)
1991年4月 文春文庫
- (41) 岡野 進「ジュニアスポーツの諸問題」(112 ページ)
2011年5月「現代スポーツ評論」所収
- (42) 沢木耕太郎「深夜特急2」(229～230 ページ)1994年 新潮文庫
- (43) 脇村春夫「高校野球と教育—過去・現在・未来—」(12 ページ)
2009年 SPR 一橋ビジネスレビュー
- (44) 脇村春夫「高校野球と教育—過去・現在・未来—」(3 ページ)
2009年 SPR 一橋ビジネスレビュー
- (45) 杉山茂「スポーツは誰のためのものか」(105 ページ)
2011年4月 慶應義塾大学出版会
- (46) 竹本武志「中学生の挑戦」(1～2 ページ) 1990年7月 大阪出版
- (47) 友添秀則「ジュニア・アスリート問題の交点」(16 ページ)
2011年5月「現代スポーツ評論」所収

付録：兵庫県還暦野球連盟に所属されている皆様へのアンケート調査

平成 24 年 6 月

このたび、兵庫教育大学大学院学校教育研究科（行動開発系コース）の研究調査活動として、兵庫県下の還暦野球チームに所属する現役選手や役員の皆様にアンケート調査を実施させていただくことになりました。

調査内容は、子ども時代のスポーツ体験、学校部活動の経験、大学・社会人・プロ野球における活動、ならびに若い時代と今の野球における興味・関心や意識の違いなどです。

わたし自身が三田プリンスに所属し還暦野球の役割に大きな意義を感じているところです。お忙しいとは存じますが、ご協力をお願い申し上げます。なお調査結果は研究・論文用のデータとしてのみ使用し、回答者の皆様にはご迷惑をかけることのないよう個人のプライバシーには十分な配慮をいたします。

よろしくお願い致します。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

竹本 武志（院生）

永木 耕介（教授）

質問用紙は全部で7ページあります。アンケートの回答時間は約20分です。

設問のなかでご自身のお考えにもっとも近い項目に○をしてください。

また、() にはご自身のお考えを自由にお書きください。

<連絡先>

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 永木耕介研究室 竹本武志

電話：090-3710-0484 E-mail：m11202g@hyogo-u.ac.jp

4) それはどれくらい行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 週に4日以上

2. 週に2日～3日まで

3. 週に1日程度

5) 中学校時代の活動成果として特記することがあれば書いてください。

(例・県大会出場、地区大会準優勝など)

種目 () :

種目 () :

6) 高校時代に最もよく行ったスポーツを1つ下から選んで、番号に○をしてください。「その他」の場合はスポーツ名を記入してください。

1. 硬式野球

2. 軟式野球 (準硬式を含む)

3. 卓球

4. 器械体操

5. 陸上競技

6. 柔道

7. 剣道

8. その他 ()

7) それはどれくらい行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 週に4日以上

2. 週に2日～3日まで

3. 週に1日程度

8) 高校時代の活動成果として特記することがあれば書いてください。

(例・府大会ベスト16、県初戦敗退など)

種目 ():

種目 ():

9) 大学や社会人時代に最もよく行ったスポーツを1つ下から選んで、番号に○をしてください。「その他」の場合はスポーツ名を記入してください。

1. 硬式野球
2. 軟式野球 (準硬式、草野球を含む)
3. テニス (硬式、軟式とも)
4. ソフトボール
5. サッカー
6. 柔道
7. 剣道
8. その他 ()

10) それはどれくらい行っていましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 週に4日以上
2. 週に2日～3日まで
3. 週に1日程度

11) 大学、社会人時代の活動成果として特記することがあれば書いてください。(例・全国2位、県大会出場、関西六大学優勝など)

種目 ():

12) 大学、社会人時代のスポーツ活動の継続について、あてはまる番号に○をつけてください。「その他」の場合は記入してください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 現在まで野球のプレー中断はなし | 2. 30歳まで野球をプレー |
| 3. 40歳まで野球をプレー | 4. 50歳まで野球をプレー |
| 5. 卒業後は何もしていない | 6. ゴルフ、登山などをした |
| 7. その他 () | |

6. 日常生活について質問します。お気軽にお答えください。

1) 野球以外の趣味について、あてはまる番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. ゴルフ | 2. 囲碁・将棋 | 3. 語学学習 |
| 4. カメラ | 5. 釣り | 6. 旅行 |
| 7. 読書 | 8. 競馬 | |
| 9. その他 () | | |

2) 健康状態についてお聞きします。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 重大な病気、故障がある。
2. 少しの病気、故障がある。
3. 健康な方である。
4. まったく健康である。

3) 暮らしについてお聞きします。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 一人暮らしである
2. 夫婦二人だけである
3. 子どもたちと同居している
4. その他

7. 日頃、体力・技術の維持向上のためにトレーニングを何かしておられますか。

1. はい
2. いいえ

「はい」とお答えされた方は、次の質問に○をつけてください。(複数回答可)。

1. ランニング
2. 水泳
3. 筋力トレ
4. ウォーキング
5. ストレッチ体操
6. キャッチボール
7. 素振り
8. その他 ()

8. 還暦野球に参加されている動機・目的についておたずねします。あてはまる番号に○をつけてください。

1) 仲間と交流できるから

1. 非常に思う

2. やや思う

3. あまり思わない

4. まったく思わない

2) 健康や若さを維持できるから

1. 非常に思う

2. やや思う

3. あまり思わない

4. まったく思わない

3) スリル（ハラハラ、ドキドキ）が味わえるから

1. 非常に思う

2. やや思う

3. あまり思わない

4. まったく思わない

4) 野球の技術追求に美しさを感じるから

1. 非常に思う

2. やや思う

3. あまり思わない

4. まったく思わない

5) 試合などで感動したいから

1. 非常に思う

2. やや思う

3. あまり思わない

4. まったく思わない

6) 自分への試練や鍛錬が必要だから

1. 非常に思う
2. やや思う
3. あまり思わない
4. まったく思わない

9. 還暦野球の魅力はどこにあると思われますか。ご自由にお書きください。

10. 全国的に小・中学生の野球（軟式、硬式とも）が盛んですが、これについてどうと思われますか。あてはまる番号に○をつけてください（複数回答可）。

「その他」はご意見を自由にお書きください。

1. 野球が盛んだから非常に良いことだ。
2. 良いことだが、オーバートレーニングには気をつけてほしい。
3. 礼儀、しつけ、道具の尊重など人間教育も必要である。
4. 指導者や保護者の過熱で、現状は良くないと思う。
5. 勝敗にこだわりすぎている。
6. 指導者のボランティア精神はりっぱである。
7. その他

1 1. 高校野球は国民的な人気を持っていますが、これについてどう思われますか。あてはまる番号に○をつけてください（複数回答可）。「その他」はご意見を自由にお書きください。

1. 高校野球があるから日本野球のレベルが高い。
2. 国民にさわやかさと感動を与えてくれる。
3. 投手の肩やひじが壊れる傾向にある。
4. プロ野球の予備校的な学校は問題あり。

5. その他

1 2. 小学生から還暦を越えるまで、野球をながく楽しむためには何が必要だと思われますか。あてはまる番号に○をつけてください（複数回答可）。「その他」はご意見を自由にお書きください。

1. 楽しむこと
2. 正しい野球知識を身につける

3. 生活環境が大切（家庭、会社、地域）
4. 年寄りだと思わない。夢を持つ
5. 勝敗よりも感謝の気持で
6. 仲間と強調することが大切
7. 健康的な生活を心がける
8. その他

13. さいごにお聞きします。若い頃に実施していたスポーツと、現在の還暦野球についての思いに違いがあればお書きください。

以上でアンケート調査は終了です。ご協力いただきありがとうございます。還暦野球や古希野球には、地域の中高年世代や青少年にスポーツの魅力や人生の素晴らしさを伝える力が存在するように思えます。

皆様のますますのご健勝と兵庫県還暦野球連盟のご発展を心から祈念して、お礼にかえさせていただきます。ありがとうございました。

自由記述における回答（抜粋）

還暦野球の魅力はどこにあると思われますか

- ・リーグ戦、交流戦があり、レギュラーもそうでない人も試合に参加でき楽しめる。
- ・昨年の夏、友人の誘いで炎天下のグラウンドに立った時、再び野球ができる喜びを痛烈に感じ、68歳の1年後その感激さめやらず。
- ・少々勝負にこだわり、上位4位までに入れば全国大会に出場できる。それも楽しみである。
- ・単なる草野球ではなく、全国規模で組織的な運営がなされており、レベルも高いのでやりがい感がある。
- ・メンバーとワイワイ、ガヤガヤできること。
- ・過去の有名選手ともプレーできる満足感がある。
- ・健康増進、家庭円満、同志得られる。
- ・チームメイトとの交流や、健康に日常生活を送る喜び。
- ・上手下手はどちらでもよい。高齢社会、体力と気力が続く限り。
- ・伊丹では、チーム結成当時から老人ホームを訪問し、年末には「おもちつき」を披露しています。
- ・老後のボケ防止に最適。ここ4年風邪をひかない。還暦で週2回、各2時間の練習。古希では週1回3時間の練習です。
- ・目的を持って考え、この年齢になっても悔しさ、楽しみが味わえる。
- ・現役の時には満たされなかった野球への渴望を満たすことが可能である。地域社会とのつながりもできる。
- ・良い仲間ができ、体調良くなる。日々が充実する。

- ・息子は高校野球の監督、二男は社会人で軟式野球。親子で夢を追うことができる。
- ・社会人、結婚、子育て、義務的でもあった。定年—解放—不安—居場所探し—健康不安—スポーツジム—継続—お金。子どもの頃やった野球がまたやれる喜びを知る場所が還暦野球にあった。
- ・還暦とは人生再出発の時、努力を通じ健康であることが社会貢献の一つだと思う。
- ・年齢を加えながらも、まだキャッチボールができる喜び。試合、練習などを終えて帰宅し、ビールをおいしく飲むこと。
- ・遅れてやってきた出会いを大切に友情を育み、無理な緊張に色目を使わず、楽しみの野球を大切にしている。
- ・同じ年代の人が健康管理に大変努力しているのに感動します。
- ・健康維持、ストレス解消、仲間との交流。
- ・若いときの完璧を目指す野球を少し残して、エラーあり、ボーンヘッドも加わった野球を、面白く気楽にプレーし、最後にはやはり勝敗にこだわらぬ素晴らしいスポーツである。
- ・わがままな野球の虫の集まり。自分のことを棚に上げ他人のミスを笑う。試合に勝った時の感動。試合後のビール。
- ・仲間との交流&スポーツが好きだから。
- ・脳梗塞になりながら野球がしたい思いから希望を持ち続けた結果、復帰することができました。運動量も向上心も自分の思いのまま。一生涯野球が続けられたらと思います。
- ・皆さんが真剣に取り組み、試合時は若いときと同様に緊張感、プレッシャーを感じながらやっている。野球のない日でも運動をやろうと思うようになった。

- ・ 仲間との交流、ユニフォームの魅力、勝利の美酒。
- ・ 試合後仲間と歓談できること。健康のバロメーターとなる。
- ・ 年齢による体力、メンタルの衰えと、アンチエイジングへの期待を両立しながら好きなことができる場に感謝しています。
- ・ 還暦&古希野球の公式戦に出場した時の緊張感、そして勝利した時、あるいは走攻守においてすばらしいプレーをしたときの大きな感動が何ともいえない。
- ・ 野球の成果でゴルフも飛ぶようになった。
- ・ 孫の子守りでブラブラしている人生より、グラウンドで大声を出して走り回っている方が楽しい。我々の年代は競争社会でもまれてきた。還暦野球でもレギュラーをとるのに競争している。相手に勝つために練習している。こんな人生はやめられない。
- ・ 自宅でゆっくりしている年齢の先輩がグラウンドで汗をかいている姿は感動します。
- ・ 目的・目標が持て、人生に張りが出る。
- ・ 年を取ると短気になりがちだが、野球チーム内で我慢強くなったと思う。
- ・ 健康で野球を楽しむこと。
- ・ わがチームは、市が老人健康対策の一つとして理解して発足した経緯もあり、体育協会に加盟し、市の推進する生涯スポーツの一つとして認知、支援を受けている。
- ・ 小学校低学年のとき、全国大会で優勝した隣の高校生にあこがれ壁にボールを当てて野球選手を夢見ていました。あるとき至近距離からのボールが右目に当たり失明。野球を禁止されてから 60 年後の野球です。
- ・ 青春時代に戻り一喜一憂できること。この年になっても向上心が湧き、

体力的にも精神的にも若返ることができる。

- ・人生で一番好きな野球が70歳を超えてもできるとは思いませんでした。女性の入団があれば最高です。
- ・生涯スポーツを追及していたので充実感がある。退職前より家族の理解があり、何よりも優先させてくれる。
- ・童心にかえりプレーできること。
- ・同好の仲間がいて、子どもにかえって夢中になれる。
- ・野球によって、生涯現役という目的（60、70、80歳）と、元気を保てると思ってやる希望がある。
- ・三度の食事より野球が好きなメンバーと一緒に野球ができる事。
- ・団体行動における個人の在り方(自己発言力、自己抑制力のコントロール)
- ・チームも5年たちチームプレーが可能となり、失敗をけなすこともなくなってきた。
- ・一般のチームだと、年寄りだからと一步下がってしまうが、還暦だと遠慮なくプレーできる。
- ・自由行動の中にも規律性がある。
- ・70歳になっても動ける。競争心が出てくる。
- ・努力してもなかなか結果が出ないので壁を乗り越えたい。
- ・緊張感が魅力。
- ・残りの人生のライフワークとして生活の質を高めるのと健康維持。
- ・定年退職後の健康維持、仲間づくり。生き甲斐、感動、感激。
- ・小・中・高と野球がやりたくて、それが還暦で実現した。
- ・異業種で人生の大半を過ごしてきた人材と交流できることは、過去にない新鮮さがある。

- ・少年時代の夢と思い出を再現しようとするところである。
- ・(人生が) 残り少ない分、一日一日を大切に(熱心に)野球に取り組むようになった。
- ・還暦野球は想像以上にレベルが高く、私の欲求を満たしてくれます。
- ・練習が好きである。試合はあったらいいな、程度。
- ・みんなから元気がもらえる。
- ・忘れていた野球への情熱を取り戻した。昔の仲間、新しい仲間と交流できる。自分の体力の限界を試してみたい。
- ・家族全員、孫も応援してくれることが最大の魅力！
- ・技術の高い人と同じグラウンドで野球ができることが夢のようだ！！
- ・同年代の人との精神面、技術面、体力面の差がわかり、劣っている面の向上を図る目標ができる。
- ・64歳になっても気持ちはいつも20歳前後でいられるのが楽しい。
- ・60歳越えても野球ができる体力に感謝。人とのつながり。勝った時の喜び。野球の話題中心の飲み会。
- ・若い頃と現在の走攻守のギャップを感じますがケガをせず楽しめます。
- ・老体にムチ打って、白球を追う野球小僧になり、チームが一丸となり楽しい野球ができる。
- ・年齢にもかかわらず、皆それぞれが自分のレベルを踏まえながら少しでも向上しようと頑張っている姿が素晴らしい。
- ・同世代がボールを追い、バットを振り、ベースを駆け抜ける爽快感と対抗意識を持って努力すること。
- ・青春の日々を思い出す。
- ・りっぱなグラウンドで思いっきりプレーでき、若い頃の現役時代に見えてなかった事が、今は見える、理解できる。

- ・過去の野球人生で頂点に立ったことがないので、一度このチームで味わいたい。
- ・技能に関係なく参加できる。メンバーの健康面に気を使ってくれる。
- ・子ども時代に野球の手ほどきをしてくれた、当時の監督やコーチに感謝しています。
- ・あらゆる職種、地位が異なった人々が対等に交流できる。会社勤務時の一様な行動や思考パターンでない点が新鮮。
- ・リタイア後、やることがなく老け込む人を見かけますが、好きな野球を楽しくできる事。
- ・同年代の人の中には寝たきりの人もいるでしょうに、健康に恵まれ野球を楽しめるのは素晴らしいことだと思います。
- ・定年退職と同時に兵庫県へ引っ越してきて、初めての土地で一人でも多く知り合いをつくりたいとの思いもあって参加しました。気の良い多くの仲間と知り合えて幸せです。
- ・異なった会社、関連会社で過去に知り合った方との再会。
- ・退職後、残念ながら気が付いたら「友人」と呼べる（プライベートにおいて）仲間が少ないことに愕然としました。人生最後の年月を仲間と楽しく過ごしたい。
- ・仲間と協力し、チームプレーを完成させ、勝利に貢献できる達成感を味わうことができる。
- ・(還暦野球を) 美化することばかりではない。勝敗にこだわり、他選手をののしり、審判の判定にクレームをつけ、暴言を吐き、チーム運営で内輪もめをおこし、ささいなことでケンカをする。各チームとも様々な問題を抱えると聞く。プロでもあるまいし、改善しないといけないことである。

若い頃に実施していたスポーツと、現在の還暦野球についての思いに違いがあればお書きください

- ・元プロも素人もそんなに差はない。神はそう意味で公平と言える。
- ・若い頃は実力が低く引っ込みがちだった。還暦に移ってからは楽しくプレーができ始めたので、持っている知識を教える楽しみも出てきました。
- ・体が思うように反応しない。歯がゆい気持ちです。
- ・還暦野球では良き指導者(元プロ)に恵まれ、献身的な指導を仰ぎ、本当に楽しい野球をさせてもらっている。
- ・年齢に比べて練習、試合数が過酷に感じる。
- ・若い頃は戦前・戦後で食べ物や着るものがなかった。グラブも布製だった。スポーツができる人は限られていたが、今は雲泥の差、思う存分野球を楽しむことができる。
- ・人生のラストランに還暦野球と出会えてラッキーでした。本格的なスポーツ経験がないのですべてがフレッシュです。
- ・昔のスポーツはかなり勝敗にこだわっていたように感じます。
- ・若い頃と今の野球ではスピードが違う。
- ・現在は楽しみたいと思うが、そこはやはり勝負事。「勝ち」にこだわる言動にはびっくりするような出来事が多くみられます。できればこの年になっても野球ができることに感謝して、お互いを思いやる気持ちでプレーができればいいなと思っています。
- ・若い頃は個人的には勝敗に淡々としていたが、今は勝ちにこだわっていないのに勝ったら無茶苦茶うれしい。負けたら残念無念が大。
- ・還暦は寄せ集めで自分の野球が正しいと考える頑固者が多く、ひとつ

のチーム方向を出すのに苦労する。

- ・レギュラーの中に、道具の手入れや荷物持ちをしないエリート意識の強い人がいる。

- ・経験者は基本ができて野球をよく知っている。初心者との協調が大事。

- ・「自分を伸ばす」努力に楽しみを感じ、1年でもながく野球がやれるようがんばる。

- ・還暦野球＝生涯スポーツは勝利至上主義ではなく、楽しみながら健康保持につなげる事。勝つことは楽しさを増幅させる一要素である。

- ・若い頃は上手になることや勝敗にこだわっていましたが、現在は縁もなかった人と60歳を過ぎて同じ方向を向いて試合をしていることに不思議な感じがします。皆さん方の経歴に敬意を表して接している。

- ・今は体力、知識の差が大きい。それを解決しないと楽しめない。

- ・健康で明るく楽しく、仲間意識を強調しながら相手チームとの交流を楽しんでいる。

- ・(今も昔も)練習や試合に臨む思いに違いはなく、今もワクワクする気持ちが湧いてきます。

- ・「参加することに意義がある」クーベルタンの言葉や、「ヘーシンクに学べ」(フェアプレー)。

- ・人を押しつけても出場したい気持ちがなくなり、相手に譲り認め合うことの大切さを感じます。

- ・「健康エリート」の仲間入りができて幸せです。

- ・野球ができる体力と理解ある妻に感謝です。チームメイトや役員の方々の存在あってこそと有難く思っています。

- ・還暦野球は素人でも肉体の鍛え方で玄人に引けを取らないで楽しめる。体力は落ちても気力だけは高校生であるギャップがおもしろい。

- ・高齢社会において、皆さんが一生懸命に取り組み、汗を流しながら今できるプレーを仲間と共有していることが素晴らしい。このような還暦野球を永木先生や竹本さんが取り上げていただきありがとうございます。
- ・還暦野球は体力が衰えてもできるところが良い。
- ・一年一年体力が落ちていくので現状維持のためには日頃の練習が大切。
- ・ながく続けること。レギュラーから外れたときにどのように続けるかが問われる。トップレベルの人は「燃えつき症候群」になるように感じる。
- ・チームによっては勝敗にこだわるあまり生涯スポーツとしての本来の意義、目的を見失いがちになる傾向がみられる。原点に戻ろう。
- ・高校時代の野球経験者とそうでない人とでは技術だけでなく、考え方も違うと思います。
- ・自分の技術ができていても、他人を同じように見ないでほしい。
- ・現在まで野球ができるとは考えていなかった。幸せな人生だと思っている。
- ・老体にムチ打って白球を追う。野球小僧になり、チーム一丸となり、楽しくやることができる。
- ・若いときは勝敗にこだわったが、今は健康にこだわっている。
- ・スピード感が違いすぎるが、「楽しく、リラックス」が年寄り野球の良いところか。野球が楽しくできることは本当にありがたい。チームの人に、対戦相手の人々に感謝。本当に野球は素晴らしいスポーツと思う。
- ・64歳になっても気持ちはいつも20歳前後でいられるのが楽しい。
- ・昔は三角ベースだった。少年野球クラブがある今はうらやましい。
- ・子どものころから、正しい技術を学べる指導者を探せ！
- ・思いは全く変わらない。今はむしろ技術的にアドバイスをもらえる先

輩が多く、野球が楽しくなっている。

・若いときは怪我也気にせず一直線だったが、今は健康が頭をよぎり一歩引いた気持ちでやっているように思う。

・残り少ない分、一日一日を大切に(熱心)野球に取り組むようになった。

・昔の栄光を追いすぎ。気持ちと体力のギャップが大きいのに、他人にそれを向ける人がいる。もっと謙虚になることが必要だろう。

・投球やバッティングの技術に興味を尽きない。今は特にMLBハイライトを毎日録画している。

・35歳くらいまでしかできないだろうと思っていたが、還暦野球の存在を知り、サラリーマンを卒業後すぐにチームに入った。

・阪神地区の統一頂点を決めたい。月に何回か移動時間が長く疲労や費用が心配です。

・一生を通じて輝けるチャンスがあったらもっと楽しめたのではと思う。30代になれば引退、指導者の道しかないから、各年代ごとに楽しむシステムがほしかった。

・若いときとの違いが判らずに、時には仲間と協調性を欠くときがあります。

・若い頃はバレー、野球、陸上、水泳、テニス、柔道等いろいろと実施してきたが、やらされている感じが強く楽しい思い出は少なかった。今は歳の差を越えてお互いに冗談を言いながらできている。最高のコミュニケーションの場だと考えています。

・強くなりたい。昔も今も練習をしている時が一番楽しい。楽しむだけでは・・・感動がなければ。

・組織的にしっかりと組み上げ、正しい野球(スポーツ)を展開すれば人も集まってくる。歳をとっても競争することは大切です。

- ・ハードスポーツがスキだが、ケガ、故障の時、野球は健康に良いのか疑問だった。
- ・還暦野球はレベルの差が大きく、公式戦でのメンバーが固定する傾向にあり、勝つための野球になりすぎている。交流戦には公式戦出場メンバーは出られないようにしたらどうか。
- ・小学生のころは野球がなく、三角ベースのソフトボール。中学入学時初めて軟球でキャッチボール。この時の楽しさが私の野球の原点です。
- ・昔は精神論が非常に強かったように思う。しかし、少しはこの気持ちがないと長続きはできないと思う。
- ・部活では「しごかれ」式が強かったが、今は全員に出場機会があるため、自分の立場で努力することができる。
- ・60歳を過ぎて野球をすることなど想像もできなかった。やってみて、自分の健康、家族、仲間に感謝できることが良い。
- ・子どもの頃の病気が原因でスポーツのできない体でしたが、楽しい野球が今、できることが大変うれしいです。
- ・個人スポーツに比べ団体スポーツの良さを学べる。多くの友人ができることが素晴らしい。
- ・若いときは勝敗に重きを置き、エラー等には罰則があり上下関係も厳しかった。現在は全員が同じ感じで楽しさがある。
- ・終戦直後の我々の年代は現在と用具面で違いがありすぎる。だが、戦争が終わった開放感があつた。
- ・野球のない日でも運動をやろうと思うようになった。
- ・高校までは強制的な面が多くあり、現在は自分の意志で行動すること。
- ・上手になりたい、活躍したいといった気持ちを超越して、本当に野球が好きということに気付いた。それが本来の目的だと思うようになった。

- ・老いても生活をエンジョイできる。価値観の違う仲間との交流。
- ・野球のおかげで心身のピンチを何度も乗り越えることができた。還暦野球の存在に感謝している。
- ・行政の認識と支援がもっと必要だ。医者通いが少ない。
- ・人間には「年の功」というものがある。今になって若い時の反省をしている。指導者は学生にそのことを指導してほしい。
- ・今は、勝つことと楽しむことのバランスをどう保つかが最も大切であると思います。
- ・若い頃の野球は脇目も振らず勝敗にこだわっていたように思う(負ければ次がなかったからか)。しかし今の還暦野球はリーグ戦であり、交流戦もあるので全員が参加できる。